

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2019 年 12 月 12 日付

漣川郡（ヨンチョングン）野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出
（野生いのしし 44 例目）

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QEB8JTJGYmJzJTJGbwFmcmElMkY2OCUyRjMyMjI2MCUyRmFydGNsVmlldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHllM0QlMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmQlM0QlMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEJTI2cGFnZSUzRDElMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdYUzRDEwJTI2aXNwaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は 12 月 12 日京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）新西面（シンソミョン）で発見された野生いのしし弊死体から ASF ウイルスが検出されたと明らかにした。

○弊死体は野生いのしし移動を防ぐために ASF 感染・危険地域に設置しておいた 2 次フェンス内農耕地で 12 月 11 日環境部捜索チームによって発見された。漣川郡（ヨンチョングン）は ASF 標準の行動指針により現場を消毒して死体を処理した。

○国立環境科学院は 12 月 12 日、ASF ウイルス陽性の確定診断の結果を関係機関に通知した。これで漣川（ヨンチョン）で 13 件の野生いのししの ASF 確定診断となり、全国的には 44 件になった。

□定員化国立環境科学院生物安全研究チーム長は“2 次フェンスの中は野生いのしし ASF 感染危険性が高い地域で、感染弊死体発見はさらに増えるだろう”と話した。

（以上）